

## ▽取組事例名

子どもと地域をつなぐ「緑のじゅうたん」～園庭芝生化による子育て環境整備～

## ▽取組期間

平成23年度～  
(継続中)

## ▽取組概要

保護者や地域住民が協力し、幼稚園や保育所の園庭の芝生化を行うことで地域のつながりを深めるとともに、芝生化された園庭を園児や地域の親子が安心してのびのびと遊ぶ場として開放することで地域の子育て環境の充実を図り、幼児期からの基本的運動習慣の構築、コミュニケーション能力の向上を目指す。

## ▽取組みの背景

少子化が進み、孤立した状況で子育てに悩む保護者も少なくない。また、子どもたちが安心してのびのびと屋外で遊ぶ機会が減少したことが、子どもの体力や運動能力、コミュニケーション能力の低下の要因のひとつと言われていることから、本市では、各園の実情に応じて保護者や地域住民と協力しながら、幼稚園や保育所の園庭の芝生化を推進してきた。

## ▽取組みの狙い・具体的内容

## (取組みの狙い)

- ・芝生の維持管理に携わる者や活用する者同士のつながりを生み、孤立した子育て環境を改善する。
- ・芝生化された園庭での活動を通し、子どもの基本的運動習慣の構築やコミュニケーション能力の向上などを図る。

## (具体的内容)

- ・成長が早く丈夫で比較的管理がしやすいティフトン芝を使って実施する。
- ・保護者や地域住民と協力しながら維持管理を行う。
- ・雨水や井水、使用済みのプールの水を利用し、節水に努める。
- ・芝生化された園庭を在園児だけでなく、地域の未就園児親子に開放する。
- ・芝生化の進捗状況や活用状況等を、各園のホームページで発信する。

## ▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

- ・園の実情に応じた協力体制の構築
- ・芝生の養生期間中の活動場所の確保
- ・節水

## ☆工夫した点

- ・園の実情に応じた協力体制づくりに努め、負担感を軽減し愛着をもって維持管理にあたることができるようにした。（保護者の希望輪番制、金曜草刈Day等）
- ・芝生の養生中には、小学校校庭の利用や園外保育を積極的に実施し、園児の活動欲求を充足させた。また、養生中の芝の成長に関心を持てるような手立てを講じた。
- ・各園の状況をHPに更新し、芝生化の工程や芝生での活動状況を日々発信することで、保護者や地域住民の関心が持続できるようにした。
- ・居合わせた者同士が、一緒に芝生の心地よさや開放感を感じることで関わりが生まれやすいため、計画的に小学生や高齢者との交流活動を推進し、地域の芝生園庭としての認知度を高めるようにした。
- ・雨水や井水の利用を可能にするとともに、使用済みのプールの水を利用することで、節水に努めた。
- ・芝生への愛着が沸き、日常的に親しみを持ってもらえるよう、担任と園児と一緒に「芝生のうた」を作った。

## ▽取り組みの効果

- ①地域コミュニティへの効果
  - ・未就園児を含めた保護者同士の交流の場
  - ・地域住民の関心の喚起
- ②教育的な効果
  - ・運動量が飛躍的に増加・全身運動を促進
  - ・情緒の安定が図られ、幼児期に望ましい豊かな情操教育を展開
  - ・五官を駆使した活動の保障・心身ともに開放感
  - ・人との関わりを広げる場として有効（コミュニケーション能力向上に有効）
  - ・自然体験の充実（トンボ等が飛んでくる。）
  - ・けがの大幅な減少
- ③環境への効果 ※同一条件での比較が困難なため、体感による効果判断
  - ・防塵、防砂に効果
  - ・照り返しが柔らかく、気温上昇を抑制効果

## ▽住民（職員）の反応・評価

<芝生化に携わった住民や保護者>

- ・芝生園庭が子どもの成長発達に良い効果があるとの高評価がほとんどである。

<職員>

- ・芝生化による多くの教育的効果を確認し、大変に望ましい教育環境となったとの意見が多い。

## ☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

先行実施園でのノウハウは共有するが、保護者や地域住民との協力体制の構築においては、各園の地域の実情に応じた体制づくりが必要となる。

## ☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

<平成26年度>

- ・公立幼稚園 全園（5園）実施完了 新規2園、継続3園
  - ・公立保育所 実施可能な園から年2園実施 新規2園、継続6園
- ※平成30年度までに16園実施予定

地域の実情に応じた協力体制づくりが必要であり、無理強いをせず自主的に参画できる役割や機会の創出、互惠性のある関係づくりに努めることが重要と考える。